

Kayak Dog

[Home](#) ▶ [工房 "KAYAK9"](#) ▶ [Wood Duck 12の製作](#) ▶ (8) フィレットティング

(8) フィレットティング

2011年 9月 08日(木曜日) 21:28 | Author: サセックス卿 | [印刷](#) [複製](#) [メール](#)

仮接着したハルレ、デッキの本接着に取りかかります。 フィレットティング (filleting) にはいくつか役割があります。

パネル接合部を厚いエポキシで接着する
ファイバーグラスシートのために接合部を緩い角度にする
厚いエポキシ (ビード、bead) を覆うファイバーグラス・テープと共に構造部材 (ストリンガーのような) となる

この作業が終わればハルレ、デッキ共に完全に接着されたことになります。

ピーナッツバター状の垂れないエポキシ・パテを作るのですが、木粉にシリカを混ぜてもなかなかピーナッツバターにならずさらに細かい切り屑も混ぜました。ちょっとクリーミーではないピーナッツバターになってしまいました (木粉が残り少なくなったもので)。クランチー (砕いたピーナッツの入ったピーナッツバター) ではないからまあよしとするか。

スティッチ穴をふさぐ幅でマスキングし、そこにエポキシを絞り出していきます。マニュアルには「半インチ厚のビードを作る」とありましたが、結構厚いですね。そのためには盛り上げたフィレットを作らなくちゃいけません、パネル接合部から1cm余りということにしました。エポキシを絞り出し、それから先が半円形のヘラで押し広げながら整形していきます。



メインメニュー

[Home](#)

[工房 "KAYAK9"](#)

[Wood Duck 12の製作](#)

[カヤック製作準備](#)

[アトリエ](#)

[情報源](#)

[アマゾン号に乗りたい!](#)

[コンタクト](#)

[ブログファイル](#)

[ブログフィード](#)

[Links](#)



マスキング・テープを剥がすと割ときれいなフィレットイングができていますが、残念ながらエッジが立ちすぎているところがあります。前にエポキシ作業練習をしたときに1mmでも段差があるとファイバークラスが浮いて密着しないのが分かったので、このエッジはならさないとはいけません。エッジをヘラで押さえ合板に滑らかに拡げたので、板が汚れてしまいました。



タック・フリー（指で触ってべとつかない）になる前にファイバークラス・テープ（50mm幅）をそっと乗せていきます。エポキシが自然に染みていき、テープは動きません。その上から生のエポキシ（増粘剤なし）を刷毛で塗っていきますが、塗るというよりエポキシを置いていく感じです。僅かな段差には気泡ができますが、これは刷毛先でチョンチョンとつついてやるとエポキシが浸透していくようです。エッジの気泡は指でファイバークラスを押さえビードを潰してやりました。



ビードよりかなりエポキシの幅が広くなりましたが、このあと木部全体をエポキシでコートしますから、ビードだけが目立つようになるはずです。



1. この作業中にエポキシがヒートアップし、急速に発熱・硬化するのを始めて経験しました。硬化剤はミディアム (#2) を使っていましたが室温が28度位あったので、オープンタイムが短く、また縦長容器に大量 (といっても360ml) 入れたためと思われます。この温度では、もう少しオープンタイムを長くし余裕を持って作業するためにスロー硬化剤 (#3) が必要と思われます。
2. フィレットニング作業でのファイバーグラスは端留め加工をしたテープを使いましたが、うっかりしてデッキ分を注文し忘れていました。仕方がないので平織りファイバーグラスを切って使ったのですが、端がもつれて使いづらいことこの上ない。やっぱりテープの方が断然作業性が高いです。
3. フィレットを整形するのにヘラ (プラスチック製) を使いましたが、真っ平らで滑らかなフィレットにはならず、どうしても (写真に見るように) 凸凹に仕上がってしまいます。技術なのでしょうが、この凸凹はファイバーグラスを乗せエポキシを浸透させた後でも残ってしまいます。もっと丁寧な作業をしないとイケません。

最終更新 (2011年 9月 08日(木曜日) 23:35)

© 2009 [Kayak Dog](#)
All Rights Reserved.

powered by Joomla
free templates by Deposit Poker & Unlimited Web Hosting